

8月開催した研修会の紹介をします。

= 令和5年度教育相談部学習会 =

〈日 時〉 令和5年8月21日（月）10:00～12:00

〈講 師〉 北陸大学教授 河野 俊寛 氏

〈参加者〉 本校教員13名（専門相談員養成研修対象者4名
新採教諭5名、教育相談部4名）
行政・その他関係者8名

〈内 容〉 発達障害について

- 1 注意欠如・多動症(ADHD) 2 自閉スペクトラム症(ASD)
- 3 限局性学習症(SLD) 4 支援・対応方法

前半は発達障害の特性、行動例、診断基準についてのお話をいただきました。後半は支援・対応方法について、ことばのかけ方やわかりやすい伝え方、ユニバーサルデザイン、読み書きを補助・代替える支援など、動画や事例を通してとても具体的でわかりやすいお話でした。質問タイムでは、合理的配慮を学校に申し入れる時にどのようにされているのかという問いに、河野先生が実践された例をもとに説明していただきました。講座後のアンケートは全員が「とても役に立った」という回答で、大変有意義な時間を持つことができました。



〈講義より一部抜粋〉

【ADHD の行動例】

- ・いつも落ち着きがなくソワソワしている
- ・気が散りやすく、一つのことに集中できない
- ・やるべきことを先延ばしにし、仕事がどんどんたまっていく
- ・飽きっぽくて一つのことが長続きしない

支援・対応方法

- ・環境を整える（黒板の上下左右には掲示物を貼らない）
- ・フィジェットバンド、センサリーツールふみおくん、バランスボールなどを使う



《フィジェットバンド》



《センサリーツールふみおくん》



《バランスボール》

* 勉強中や食事中にソワソワ動く動作を発散させ、集中力と注意力を高めるように考えられています。

【ASD の行動例】

- ・人と話をしても、視線があまり合わない
- ・ことばの意味を字義通りに捉えるので、冗談が通じない
- ・特定のことにしか興味や関心がない
- ・人目を気にしないので清潔感に欠ける

支援・対応方法

- ・見てわかる工夫（構造化）
- ・スケジュール（時間の構造化など）

【SLD が示す困難さ】

＜小学校１・２年＞

- ・逐次読み、飛ばし読み、勝手読み
- ・拗音、促音が読めない書けない
- ・「は」と「わ」、「お」と「を」の使い方がわからない
- ・濁点や半濁点が抜ける
- ・句読点が抜ける

＜小学校３年以降＞

- ・学年レベルの文や初めての文章は読むことが困難
- ・黙読ができない
- ・流暢に読めない
- ・読み方が変わる漢字が読めない
- ・読み飛ばし、読み間違いが多い
- ・ひらがな主体の文しか書けない

＜中学以降＞

- ・英語の習得が難しい
- ・読むのに時間がかかる
- ・作文が書けない
- ・学習意欲が薄れる

支援・対応方法

○読み書き補助・代替する支援

- ・スリット、カラーフィルター、フォント変更、レイアウトの変更(行間拡大、分かち書き、文字の拡大など)
- ・読み上げ
- ・代筆
- ・写真（板書を撮影する）
- ・キーボード入力



《ものさしに、１行のスリットとカラーフィルターがついている文房具です》

参加者アンケートより

- ・ADHD 児の動画から、考えている時に体がよく動いていると話を聞きハッとしました。
- ・発達障害の基礎的な内容から具体的な支援まで聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・動画や事例があり、とてもわかりやすかったです。